

## 第7回（令和7年度第7回）府中市生涯学習審議会会議録

1 日 時 令和8年3月18日（水）午後2時～3時35分

2 場 所 府中駅北第2庁舎3階会議室

3 出席者（敬称略）

(1) 委員11名

市村忠司委員、江崎章子委員、榎本成子委員、梶野光信委員、佐野洋委員、  
島田文江委員、関川けい子委員、田頭隆徳委員、立石朝美委員、長畑誠委員、  
福田豊委員

※ 池田和彦委員、稲津和彦委員、杉原正枝委員、吉垣親伸委員 欠席

(2) 職員7名

矢ヶ崎文化スポーツ部長、古田文化スポーツ部次長、平澤文化生涯学習課長、  
斎藤文化生涯学習課長補佐、武居生涯学習係長、栗原主任、高橋事務職員

(3) 計画策定支援業務委託事業者3名

株式会社都市環境計画研究所 大竹氏、森氏、大内氏

4 報告事項等

(1) 配布資料の確認

ア 資料1 第6回府中市生涯学習審議会会議録（案）

イ 資料2 令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回理事会資料

ウ 資料3 第4次府中市生涯学習推進計画の方向性（基本目標・基本施策）

エ 資料4 第4次府中市生涯学習推進計画の策定に係る重点課題の整理

オ 資料5 府中市図書館協議会委員の推薦について

カ 資料6 第4次府中市生涯学習推進計画の策定スケジュールについて

(2) 前回会議録の確認

各委員に校正を依頼した前回会議録（案）について、資料1のとおり一部修正の上、  
市民に公開することが了承された。

(3) 令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回理事会について

2月17日に開催された理事会について、資料2のとおり事務局より説明。当日  
参加した会長から報告があった。

5 審議事項

(1) 第4次府中市生涯学習推進計画の基本目標・基本施策について

会長： 審議事項としては議題にあるとおり2つある。事前ワークで投票していた  
だいた基本目標案を決めていくこと、また、より具体的な中身として、今ま

での重点課題を基に基本施策を提案しているもので、それについて議論し、決めていきたい。

議題の2つ目は、図書館協議会委員の推薦となっているが、それは最後に行う。まずは、事務局から資料3と資料4の説明をお願いする。

事務局： 資料3は、計画の基本目標及び基本施策を検討するに当たり、計画書の冒頭部分の構成をイメージしつつ、たたき台として作成した案である。今後の議論を通じて、更に充実した内容にしていきたい。

1 ページ上段の「我が国の生涯学習について」では、近年のウェルビーイングや社会的包摂につながる地域社会における社会教育の意義など、中央教育審議会での議論を中心に、国における生涯学習の動向を簡潔に整理したものである。

下段の「府中市における生涯学習事業の範囲」は、府中市において実施している生涯学習関連事業の広がりを図示したものである。中央の青い部分には、文化生涯学習課が実施する中核的な生涯学習事業を示し、その周囲に、現行計画に記載されている他課にまたがる生涯学習事業を配置し、さらに、外側のオレンジ部分には、現行計画には明記されていないものの、関連する事業を示している。生涯学習推進計画ではない他の関連計画との整合性も踏まえ、どの範囲までを新たな計画の対象とするかを、今後の検討の中で確定していく予定であり、次回以降の審議において扱うこととする。

2 ページの「府中市の生涯学習の捉え方」は、今後の府中市における生涯学習推進の方向性を整理したものである。総合計画における文化・学習分野の基本目標を前提に、人生100年時代における学びの機会の増加に伴う生涯学習ニーズの拡大、少子化に伴う都市の縮退といった社会状況から導かれる方向性を、ページ下段にある「多様性・公平性・社会的包摂の重視」、「生涯学習資源の持続・育成」、「市民と地域コミュニティの主体的学びへのシフト」の3点に整理している。

これらを踏まえ、基本目標と基本施策をご検討いただくものである。

3 ページには、基本目標の掲載案を記載している。

4 ページは、基本施策の案を示しており、次期計画では、基本施策1として「学びを伝え広げるつながりづくり」、基本施策2として「だれもが学び合える環境づくり」の2つの柱とする案を提示している。

5 ページには、次期計画全体の体系を示しており、基本施策の下に具体的施策を、その下に各種事業が紐づくイメージを表している。

基本施策案については、今回初めて提示するものであるため、どのようなまとめ方が適切であるか、ご審議いただきたい。

続いて、資料4については、左側にこれまでの審議等を踏まえて整理した重点課題を、右側に第4次計画にいかすべき課題を再整理した内容を示して

おり、重点課題1から3までを基本施策1に、重点課題4及び5を基本施策2としてまとめたものである。これらを参考に、基本目標及び基本施策について議論いただきたい。

なお、前回の会議において、課題整理を行う際に、その主体（行政が行うものか、市民協働で行うものか、市民や企業が主体となるものか）を区分した方が良いとの意見があったが、今後、具体的な施策内容を審議する際に改めて検討していただきたいと考えているので、了承いただきたい。

補足説明について、株式会社都市環境計画研究所より説明をお願いする。

事業者： 資料3の冒頭で「我が国の生涯学習について」という説明について、繰り返しとなり、この計画を策定する中では、近年の人生100年時代や、社会の多様性・多様化、デジタル化の進展などを背景にして、学び直しを含めて誰もが主体的に学び続けられる環境づくりというところが重視されてくる。これは国の計画や東京都の計画等からも言われていることで、その辺りを前提として踏まえていきたい。

また、生涯学習は、より良く生きること、ウェルビーイングや、社会的包摂の実現、地域の持続性を支える基盤としての意義が一層高まっているという背景も踏まえ、それらを前提として記載している。

再度繰り返しとなり、下の図については、真ん中の部分に書かれている内容が現在の文化・生涯学習の部門で実施されている内容で、現計画の中にも含まれているのは、内側の円の部分となっている。外側のピンク色の部分は広義の生涯学習の内容ということで示している。範囲については自治体によっても考え方が違うため、府中市においてどのような形で最終的に生涯学習推進計画の範囲を考えるのかという議論の前提として、現状を示している。

2ページ、3ページについて、ニーズが拡大しているという箇所は、これまでの議論やアンケートの中でも示されていたところである。ただ、このニーズを全て生涯学習の中で引き受けていくことが難しくなることを踏まえて考えなければいけない。さらに、縮減について、府中市は人口が大きく減少傾向にある都市ではないので実感がないところではあるが、全国的には人口は減少傾向であるため、今後、都市の縮退に対応した生涯学習のあり方を検討していかなければいけない。そこで推進方向としては、生涯学習ニーズと公共領域の拡大の抑制の2局面の課題を解決していくために、府中市がこれまで作り上げてきた生涯学習資源を、市民及び地域コミュニティが主体的な役割を担うという意味を持って、守り育てていくということが大事であるという流れで捉えている。

3の基本目標、たたき台案はこれから検討いただくところである。事前のワークで投票をいただいているが、本日最も相応しい目標について検討いただきたい。

続いて、資料4についての補足だが、重点課題は事務局からの説明どおり、左に現計画の課題を記載し、右では、前回の会議でいただいたキーワードなどを盛り込みつつ、文言等を修正し再整理している。重点課題を5つに整理し、1つ目は「連携・協働の仕組みづくりを強化する」、重点課題2つ目は、「多様な学びのコミュニティと学びを社会につなぐ・循環する機能を構築する」、重点課題3つ目は「担い手・人材・活動の持続性を支援する」となっており、3つはつながりに関するものである。

重点課題4つ目は「学びへのアクセス・参加のしやすさを確保する（機会保障・包摂）」で、講座などの環境に関するものとなっている。

重点課題5つ目は「情報基盤を強化する」で、これは情報基盤のところとなっている。

この5つの重点課題を踏まえて整理したのが資料3の4、5ページに当たる部分である。重点課題1から3までのつながりに関する部分を基本政策1「学びを伝え広げるつながりづくり」としており、これまで行ってきた生涯学習の取組や、更なる充実を含めた環境づくりとしている。重点課題4、5に当たる部分は、基本施策2「だれもが学び合える環境づくり」として、これまで行ってきた生涯学習の取組や、更なる充実を含めた環境づくりとして今回整理した。

会長： 本日話し合うことの本心は、資料3の3ページ目の基本目標をどうするかということと、4ページ目にある基本政策1と2の分け方で良いのかどうかということである。

もう一度、私の方から、その前段階である資料3の1ページ目と2ページ目について確認していきたいと思う。この中身が、計画書の最初の方に入ってくる文章になる。文言はこれからも変えられるが、中身について確認できればと思っている。

「我が国の生涯学習」についてはここに書いてあるとおりで、一人ひとりが学んで豊かになるというだけではなく、それがより良く生きることにもつながり、社会的包摂にもつながり、あるいは地域の持続性を支える基盤にもなるということが一番大きなポイントだと思う。

その下の「府中市における生涯学習事業の範囲」についてはこれから話し合っていく中で、一番中心の水色の部分が現在の計画の中心ではあるがその周りの部分も計画には入っていて、ピンクの一番外側の部分についても、新たな計画の中でどうしても言及すべきものがあればもちろん排除するものではない。ただ、担当部署も違うのでその計画との整合性の問題は必ずある。

これから話していく中でこの部門とは連携しなければいけないというものがある、一番外側のピンクの部分についても言及していくことは可能であるということは押さえておいてほしい。

2 ページ目は、一番下の3つがポイントだと私も思っている。今までの資源をしっかり持続的に守り育てていく、育てていきつつ、結局行政に頼り切るわけにもいかないのだから、市民、それから地域コミュニティあるいは民間企業などが主体的に役割を担って、学びのコミュニティを広げていくということが大事である。

この1 ページ目と2 ページ目について何か意見や質問等はあるか。

委員： まず、1 ページ目の「よりよく生きること（ウェルビーイング）」について、「ウェルビーイング」という流行語、バズワードというのはどうも好きではない。なぜ「ウェルビーイング」と言い換えるのか。「より良く生きること」だけでいいのであって、「ウェルビーイング」という言葉について、例えばWHOが定義した元々の内容に立ち返る必要があるということなのか。それとも何か別の意味合いをここに込めているのかがわからない。混乱の基になるのではないかと思う

会長： この「ウェルビーイング」という言葉について他の意見はあるか。なければ、この言葉を使った経緯について事務局から説明いただきたい。

事務局： 「ウェルビーイング」については、中央教育審議会においても答申の中で触れられており、国の教育振興基本計画の中にも実際に使われている言葉である。国の動向としてまとめた記載の中で、その言葉をそのまま使っているという次第である。

委員： 半ば了解、半ば疑問である。国の言っていることだから良いというそのスタンスそのものが私にはあまり理解できない。そもそも総務省などの役人が「ウェルビーイング、ウェルビーイング」と叫んでいるのを聞いているときから、あれは一体何だと思ってきたため、私個人としては使いたくない。しかし、委員皆さんの意向で、これはやはり良い言葉だということであれば、あえてこれ以上反対はしない。

会長： 今後に向けて検討することとしたい。使うにしてもきちんと定義しないといけないと思う。

委員： 2 ページ目について、「公共領域の拡大抑止」、「抑制」という言葉が入っているが、公共領域というはもっと大切にしなければいけないと常々思っている。なぜ、抑止するのか。要するに公共投資が膨らみ過ぎるとか、地方自治体の予算をもっと縮小しなければいけないとか、歳出の効率化や削減のことを意味するのか。公共領域の意義を評価しないという意味が含まれている

のかどうかその辺りが気になっている。

会長： 私も気が付いていなかったが、言われたとおり、「公共」という言葉は行政のやることだけを指しているわけではなく、もっと広いので、そういう意味ではここは「公共領域の拡大抑止」ではなく、別の言葉が良いかもしれない。意味としては、行政の予算を使ってやることをできるだけ抑えたいということだと思うがいかがか。

事業者： 通常書く場合は、「行政サービス」という言葉を使うかと思うが、その言葉でよければ一旦修正したい。

会長： そうだとしても「拡大抑止」、「抑制」という表現は少し強いような気もする。行政サービスに関する表現の部分は、また検討したいと思う。

委員： 2ページ目の下から2行目「市民及び地域コミュニティ(地元企業を含む。)」という表現があるが、私の立場からすると、地域コミュニティと地元企業というのは別のジャンルの活動、集団における別の性格を持っていると思うので、「市民、地元企業及び地域コミュニティ」になると思う。

企業は、中小企業、大企業であれ市場経済メカニズムの中に組み込まれていて、それに適合する形で動いているわけで、それに対して地域コミュニティは別の原理・仕組みで動くものである。これは一緒にしない方がいいのではないかというのが、私の感想である。

会長： そのとおりだと思うので、今後変えていく方向で考えたい。

委員： 1ページ目の総合計画と生涯学習推進計画の関係の部分で、「放課後子ども教室」と「子どもの居場所づくり」があるが、施策上違う扱いなのかというのが1つ目の質問である。

2つ目は、図書館の機能は生涯学習推進計画に入っていて、その外出しで「子ども読書活動」とあるが、これは「子ども読書活動推進計画」という別の計画を作るという関係があって外出しにしているのかと推察される。しかし、図書館の機能を入れるなら、「レファレンスサービス」も「交流イベント」も全部生涯学習計画に入ってもおかしくないと思った。

また、居場所づくりのことでいうと、「高齢者の居場所づくり」についても同じではないか。施策的には高齢者福祉の部局がやっているということ自体は、分かっているが、こういった居場所づくりやコミュニティということであれば、これを外出しにするのはどうなのかと思ったというのが1ページ目の感想である。

2ページ目については、多様性や私が何度も発言したリスキリング、時代

変化に合わせて必要なキーワードを入れていただいたことには感謝申し上げます。しかし、3番目の「都市の縮退」という言葉についてはあまり聞きなれない言葉だった。ネットで調べてみたら、物理学で使う用語のようである。要するに、都市の規模が人口減少社会にあって都市の規模や機能が縮小してくという意味なら、素直にそのように書いてしまった方がいいのではないかと思った。

先ほどの公共領域の拡大などの話にも関係があるが、人口がどれくらい減り、生産年齢人口の割合や高齢者の人口、若者の人口がどう変化し、10年後20年後30年後、府中市の行政というものがどういうふうに変わり得るか、というようなものはデータで見せて市民に理解を促すという方法を取ってはどうか。言葉だけで書いてあると、その辺りの意図が伝わらない。これからは総合計画も当然作り変えていくと思うので、データをきちんと入れ込むということも併せてやってほしい。

会長： まず、1ページ目のこの子どもの居場所、高齢者の居場所、図書館の扱いについて事務局からお願いしたい。

事務局： 「子どもの居場所づくり」、「放課後子ども教室」については、児童青少年課で所管しており、「府中市青少年健全育成基本方針」に含めて推進をしている。放課後に小学校の校舎内で行っている「放課後子ども教室」と、中高生など青少年も含めた「子どもの居場所づくり」の事業については、分けて記載している。「放課後子ども教室」が枠内の現計画の中に含まれているが、現計画にこれを入れた詳細については、当時議論があったと思うが、現状では分からない。同じく図書館についても、「府中市子ども読書活動推進計画」を図書館で策定して行っており、既に現計画の策定時にはそういった活動があったと思うが、生涯学習推進計画には入れない形となっていた。高齢者の居場所づくりについても、高齢者支援課で行っており、現計画には含まれていない。

関連することだが、文化センターには児童館や高齢者福祉館が入っており、地域コミュニティの活動の中でそういった類の活動も取り組んでいると捉えている。

委員： これは、あくまでも第3次計画ではこのように位置付けているという理解で、第4次計画を作るときには、また議論の余地はあると理解して良いか。

事務局： そういうことである。

会長： 2ページ目の縮退という言葉についてはいかがか。

副会長： 縮退というのは、例えば、シュリンクエコノミーという言葉があり、世界に先駆けてシュリンクしている日本というのはよく出てきている。縮退、縮小という意味である。

委員： 特に違和感がないのならいいが、聞きなれないと思ったので調べてみたら物理学の用語とあったので質問してみた。

副会長： シュリンクエコノミーというのは、「縮退経済」という意味であるので、例えばEUも、縮退してEUになっているというように理解もされている。

委員： 言葉自体は皆さんの中で練っていけばいいと思うが、「退」という言葉にはどちらかというネガティブな表現が見て取れるということが気になった。要するに「持続可能な社会」という言葉も、言い換えるとある意味ではもう成長が見込めないということの裏返しであったりするので、その辺りの表現の工夫が必要ではないかというのが本音である。

会長： 最終的にどういう言葉を使うかは、また次回以降にしたいと思う。指摘があった、データを示すということはそのとおりであると思うので、それはこれから作っていく中で適宜入れていきたい。

事業者： 先ほどの「都市の縮退」の話に戻るが、聞き慣れない言葉であるのご指摘があり確かにそうだったのかと改めて思った。国土交通省では、全国的に人口が減少して中心的な市街地がスポンジ化していくという過程の中で、縮退する都市をまとめてコンパクトシティ化するという考え方が10年以上前から主流になってきている。なぜネガティブな言葉を使うのかというと、その覚悟を持って、広がった都市をコンパクト化していかないと生き残れない、というようなロジックでわざわざ使った言葉なのではないかと感じている。それが生涯学習の計画に馴染むかどうかというところはあるので、委員の方々の考えを踏まえて修正をしていきたい。

また、人口については、「府中市人口ビジョン及び府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で府中市においても、おおむね2030年頃をピークに人口は減少傾向に転じるという予測が示されている。

2060年頃、最も減少した場合には23万人、最も持ちこたえたとしても24万人ぐらいまで人口は減少するということが、机上の計算ではあるが出ている。そういった計画の部分で少し分かりやすいように入れていくことも、今後検討したい。

委員： 「縮退」という言葉に関して、コミュニティデザイナーの山崎亮さんとい

う人が、本の中で「縮充する日本」という言葉を使っている。要するに「縮退」だけではなく、縮小するけど中身を充実させるという言葉である。参考にさせていただけたらと思う。

会長： 事実の認識については皆さん特に異論はないと思うが、どのような言葉を使うかということだと思う。

東京都の中でこの話をきちんと出している自治体はまだあまりないので、危機感をしっかり示すということになるとは思っている。

委員： これまでずっと使っていた「学び返し」という言葉は、今回1つも載っていないが、どのような扱いをしようと思っているのか。

会長： 後の具体的な内容の議論の中で皆さんに意見を聞こうと思っている。ここには特に入れておらず、この後もあえて入れてない部分がある。ただ、「学び返し」という言葉については、例えば基本目標に入れていくのか、皆さんの意見ももちろん聞きながらと思っている。

次に、3ページ目の基本目標を決めていきたいと思っている。事前に投票してもらった結果が出ているので、事務局から説明をお願いする。

事務局： 1 「誰もが気軽に参加して、楽しく学びあえるコミュニティの促進」 2票  
2 「すべての人が生涯にわたり学びを続け 学びでつながり  
自分らしく暮らすコミュニティと共に成長するまち 府中」 2票  
3 「地域をつなぎ あなたをつないで 未来へ拓く  
府中へまた一歩」 2票  
4 「色んな学びを互いに認め合い 高め合いながら人と地域をつなげて  
未来へ広げていく」 0票  
5 「みんながつながり 共につくる 多様な学びのコミュニティ」 5票  
となっている。

会長： 今現在、1・2・3番が2票、4番が0票、5番が5票ということである。全部足しても11なので、今日出席の委員の中で投票していなかった方で、何が良いかここで出していただければと思う。あるいは、投票はあえてしないという方もいたかもしれない。数字から言ったら5番が一番多かったが、どうするか。

委員： 「府中」という言葉が入っているのが2つある。地域の名前を入れた方がいい。「府中」を入れて身近なものしたい。

会長： 5番に「府中」を入れるとしたらどうなるか。

委員： 「多様な学びの府中のコミュニティ」にしたらどうか。

会長： 「の」が多い印象である。

委員： サブタイトルでいいと思う。

委員： 「府中」は入れたい。

委員： 5番の投票が一番多いが「多様な学びのコミュニティ」というのは、要するに生涯学習の目指すところは、学びのコミュニティを作ることなのか。

私は、違和感があって、「学びのコミュニティ」が例えば、府中のいろんなところへ、どのようにつながっていくのか。

府中は、コミュニティを市の行政の基盤に据えて、地域コミュニティを育てていき、そこで民主的で平和な府中を発展させようというようなところにつながっていくのだろうと思うが、これを読む限り、「学びのコミュニティ」に留まってしまっていて、生涯学習は単なる「学びのコミュニティ」を作ることだけなのかという気がしている。解説をお願いしたい。

会長： 私がよくこの言葉を使っているので、この目標案があると思うが、多様な学びのコミュニティができることで、次に何かを踏まえて、地域の持続性を支える基盤とか、あるいは社会的包摂の実現につながっていくということ言いたい。しかしそこは書いていないのだと思う。そこまで言いたいのであれば、この後ろに本当は何か足した方がいい。

委員： 要素として、これからは人とのつながりが大事であるというソーシャルキャピタルの話、共に作るということも多文化共生の姿勢、多様性を認めるというこの3つのキーワードが入っていることで5が一番良いと思った。

「学びのコミュニティ」は一般的に生涯学習・社会教育の業界で当たり前のように使われている言葉だったので、先ほどのような疑問はあまり持たなかった。目標やキャッチフレーズなので、自己完結的にその言葉だけで意味が取れるということではなく、多様な解釈ができるように見せておくというのも1つのやり方だと考える。

委員： 私は投票しなかった。どれも投票できないと思った。事前に資料を見て、今度の目標の中に何を込めないといけないか、今まで話してきたことが入っ

ていないといけないだろうと思った。そうすると、この5つはどれも当てはまらない。そしてそれぞれの言葉が今までやってきたことでしかないから、これから府中は何を変えてどうしていききたいのかということがどれにも入っていない。聞きやすい言葉、分かりやすい言葉のリバイバルだったので、どれも選べなかったというのが正直なところである。

強いて言えば、事前に配られた資料を見ていて、一番近いのが3番ではないかと思っていた。地域をつなぐ、自分をつなぐということが入っている。

しかし、未来へどう拓くのかは具体的にはない。「未来へ拓く府中へ」の後に「また一步」とあるがこれはいらぬのではないか。「未来へ拓く府中で」で止まっていれば、私は問題なく3番に丸を付けたと思う。

新しさがスローガンの中に入らない、やりたいことが入っていないということが投票しなかった理由である。

会長： 3番と5番の違いを見ると、5番はみんながつながるといいう言い方になっている。3番目は、地域とあなたというように、より具体的に限定されている。

そして、3番は、「未来に拓く」という言葉が入っている。一方で、「共につくる」というのは逆に5番に入っている。5番には、「多様な学び」という言葉があるが、2つを合わせたらどうなるか。

委員： はっきりしない曖昧なところがたくさんある。3番は、このままでいくと「また一步」とあるが、進むのか退くのか分からない。誰が、という主語が感じられないので、曖昧で気持ちが悪い。誰が「また一步」なのか。それだったら、「府中」で切ってしまうのはどうか。未来へ拓いて、未来に対して府中市を、でもいいし、府中に住みに来て、という意味でもいいし、府中に税金払って、という意味でもいいし、府中で言葉を切れるのであれば良いのかと思う。

今まで話してきた包摂性だとか、今までの行政サービスのようなものから、住民のコミュニティ主体の生涯学習にシフトするということが、これは住民に府中市から丸投げしてしまうのか分からないが、主体が変わるところをもう少し意識した言葉にするのが良い。

会長： 例えば、「地域をつなぎ 共に未来を拓く 多様な学びのコミュニティ」それとも、「未来を拓く府中」にするのはどうか。「多様な学びのコミュニティ」を残したいという気持ちがある。

そうすると、「地域をつなぎ 共につなぐ」、となる。つまりみんながつながるといいうのは、受動的な感じがするので、「地域をつなぎ」の方がより主体性が見えると思った。

「共につくる」というのを、「共に未来へ拓く」にすると、包摂性も入ってくる。「多様な学びのコミュニティ」を実現していきたいという1つの手段であるということである。ただそうすると「府中」は入らない。

委員： 5つほど案があるが、1番から4番までは過去に出たものをそのまま持ってきているが、5番については今までにない。5番は誰が作ったものなのか。

事務局： 委員の指摘のとおり、5番目はこれまでの議論を踏まえて事務局が作成した案である。

委員： 5番は、事務局案で、他は今までの意見から出しているということ。毛色が違うと思った。

会長： 発言していない方からも、意見がほしい。感想でも構わない。

委員： 感想になるが、響きがいい、口に乘せやすいのが5番だと思って私は5番にした。

委員： 私は、1番の「誰もが」や4番の「色んな」という抽象的な言葉が入っているものは省いた。2番は長い。そうなると5番となった。でも、先ほどの「みんながつながり」のところを「地域をつなぐ」という言葉に変えるのはいいと思う。キャッチフレーズは、長すぎるよりは、きちんと残る言葉であれば長くない方が良く思っている。

委員： 私は1番を選んだが、一番親しみやすいと思って選んだ。堅苦しいのは避けたいと思った。

委員： 私も1番を選んだが、この文章そのものではなくて少し変えてもらいたいと思いつつながら1番を選んでいる。

私の考え方は、まずシンプルで、調べがいいものが良いということ。喋っていて調べがいい、調子がいいという感じで私が作り変えたものがある。

「誰もが」を取り、「気軽に参加でき 楽しく学び つながり合える府中」とした。コミュニティは取った。調べを良くするには、もっとシンプルにして、「気軽に参加 楽しく学び つながり合える 府中」。「府中かな」と最後に「かな」をつけると7・7・7・5となりちょうど良い。

「府中」で終わると7・7・7・3になるが、日本人は七五調がいい。俳句でも短歌でも、演歌でも歌謡曲でも7・5がよく使われていて、調べがいい形で作ってみたがいかがか。

委員： 一番多く票が入っているところを直していくのが良いと思う。

委員： 1番は最初「府中」ではなくて「コミュニティ」としていたが、皆さんの意見を聞いて変えた。2番を選んだ方の意見も聞いてみたい。

委員： 私は1番を選んだ。みんなが覚えやすいのが1番だと思った。5番の「みんながつながり 共に作る」の後に「府中」を入れたらどうかと思った。

委員： 回りくどいのはやめた方がいい。

委員： 感想になるが、生涯学習に必要な観点が全部入っているということで私は2番を選んだ。これまでの生涯学習のコンセプトと違って、単なる自己満足だとか趣味の充実ではなくて、問題解決というような要素も入っているということを重視したが、選ぶときに少し長いと思いながら選んだので、少しカットしてはどうか。

「学びでつながり コミュニティと共に成長するまち 府中」というように、少し削減するとやや改善するのではないかと思う。

会長： 確かにシンプルになったと思う。先ほどサブタイトルという話もあった。2つフレーズを選び、メインとサブとしてはどうか。意見は出尽くしたのであれば、もう一度持ち帰って考えてみたい。1番の短縮版と2番の短縮版があり、5番も変更版が出た。この3つを組み合わせるとメインとサブの2つのフレーズにするのはどうか。

委員： 5番について、私が5番を外した理由は、「みんながつながり」と、「ともに」とあるが、これは一緒ではないかと思った。「みんながつながり」を取って「ともに」を残すか、「みんながつながり作る」というような感じにするのが良い。

会長： 「未来を拓く」という言葉をいかして、「ともに未来を拓く」ということもできる。1番と2番と5番の意見を混ぜて2つフレーズを作る。最終的には次回で決めることにする。中身については、多分誰も反対はないと思うので、表現については次回としたい。また、「府中」を入れたいという意見や新しさが欲しいという意見、5・7・5でうまく揃えると良いという意見があった。

委員： 「府中」はサブの方につくのか。

会長： その辺りも含め、最終的に次回決めたい。

では、残りの時間を使って、資料3の4ページ目の基本施策について話をしていきたい。まず、基本施策1は、「学びを伝え広げるつながりづくり」で、副題が「学びを通じた持続可能なネットワーク」となっている。基本施策2は「だれもが学び合える環境づくり」、副題が「一人ひとりの学びを支え、学び合いが広がる基盤づくり」となっている。この2つを柱にしたかどうかという提案である。

4ページ目の下の方に説明文も書いてあるが、何か意見があればお願いしたい。

5ページ目、あくまでも案ではあるが、基本施策ごとの具体的な施策という箇所を見ていただくとより分かりやすい。基本施策1について言うと、色々な主体との連携、ハブなどのネットワークを作ろうということ、学んだことの成果も広げていくというところでは、学び返しに近い内容である。そして、それを支える人づくりというところが入り、基本施策1となっている。

基本施策2は、学ぶということに特化して、正に社会的包摂などの部分を考えた部分である。学びのきっかけとそれから機会、環境づくりと、情報共有の仕組みづくりという形になっている。

「多様な学びのコミュニティ」についてはどちらが良いのかと思ったが、基本施策1に入るのではないかと。色々な人たちが多様に集まってきて、学びができていくという意味で1である。基本施策2の場合はどちらかというと、個人がもっと学びやすいように、色々な人たちがそれぞれの状況に応じて学びやすいようにしようということで、個人に焦点を当てている。1の方が、コミュニティや学び合い、それを支えるネットワークといったようなものになっているので、1が良いか。

事務局： 資料4で重点課題の再整理した表があり、多様な学びのコミュニティについては、重点課題2に整理してある。重点課題2は、基本施策1に該当する整理となっている。

会長： こちらを見ると分かりやすい。資料4の右側を見ると、基本施策1に入ってくるのが重点課題の1から3まで、基本施策2が重点課題4と5ということになっている。ここに書いてあるもので漏れているものはないかという視点もあるかもしれない。重点課題の中に入っていないものについても何かあればお願いしたい。

副会長： 多様な学びのコミュニティの話でも出てきていたが、施策はプロセスであり、基本施策1と2は両方とも「何々づくり」と記載しているので、その結果として、多様なコミュニティが活性化するというように解釈すれば、特に

文言等で入ってなくても良いのではないか。

施策なので、継続して進めていくことができるという観点で、指摘をいただければと思う。

会長： その意味では、5ページ目の具体的施策も見ながら、検討いただきたい。間に「重点施策なども今後検討」とあるので、これは次回以降に出てくることだと思う。

今の段階では、この基本施策1と2のまとめ方で進めるということで良いのであれば、とりあえずこれを前提として、具体的な施策、重点施策が出てくると思う。基本施策の検討と具体的施策事業の検討は、次回4月にやることになっているため、この基本施策1と2の分け方で良いということであれば、それに沿って、もう少し細かい具体的な施策や重点施策を出していただき、そこで話している中で何か違うものが出てきたらその時に考えるということにしたい。

ここで議題が終わってしまうが、何か気になる点はあるか。

事務局： 基本目標について、先ほどの議論を基に組み合わせた案を3つ挙げたため、本日もう少しこの議論を続けていただきたい。

会長： 1「地域をつなぎ 共に未来へ拓く 多様な学びのコミュニティ」  
2「気軽に参加 楽しく学ぶ つながり合える府中」  
3「学びでつながり コミュニティと共に成長するまち府中」  
の中からメインとサブを作るということで考えたい。

委員： 1番の「地域をつなぎ 共に」の「共に」はいらない。同じ意味だと思う。サブタイトルは、メインにカタカナがあるなら、カタカナがない方がいい。

委員： 「つなぐ」というのは、地域をつなぐのか、人をつなぐのか、学びでつなぐのか。何をつなぐというところへ持っていきたいのか、だんだん頭の中で分からなくなっている。「多様な学び」という言葉は、私は欲しいと思っているが、せつかくまとめてもらったが、迷っている。

委員： 私もこれを見て、1番がいいと思ったが、今指摘があったように、何を学ぶかという部分がもう少しキャッチフレーズとして明確に出てくると良いと思う。

委員： 私も「多様な」という言葉は入った方がいいと思っている。作業の仕方として、どうしても入れたい要素は、その言葉の意味をどのように載せるかと

というような作業が一番簡単にできるかなと思っていた。中教審では、社会教育で、生涯学習とは言っていないが、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を掲げていて、要するに人と人とがつながりがあってそれが輪になっていくと地域ができて、人づくり、地域づくりで全体のつながりを作っていくということではないか。先ほどから出ているが、コミュニティの捉え方を、地域コミュニティと捉えるのか。そうではなく、人々のつながり自体もコミュニティという言い方をするので、その辺りのところではないか。地域コミュニティは大事、地域をベースにすることは大事だが、そうではない、「学びのコミュニティ」というものがあるのも良いと思って聞いていた。

要するに、どの要素がどこに込められているかということが確認できればいいと思う。個人的なこれまでの発言からすると、生涯学習は楽しいものだとか、老後の生きがいを保障するとか、そういう側面から、「生きるための生涯学習」という言い方をしたが、その生涯学習観というものが転換していく、というような要素が共通目標の中から読み取れることが一番良いと個人的には思っている。

委員： 日々、学校で学びについて考えているが、地域でつながるのは難しいと思っているので、皆さんの考えを聞いて分からなくなっている。「つなぐ」、「関わる」ということを大事にしたいが、どうやったらつながるのか。小さいときから学びは続けていくし、多分ずっと学んでいくというくらいしか考えられていない。難しい。

委員： 地域というのは、府中の各地域であるという方が良いのではないかと。「府中の地域をつなぎ 共に未来へ拓く」。

委員： 1番、「共に未来を拓く」というのは、巷にある何かの展示会のポスターのスローガンとかキャッチコピーというか、そのような感じがする。変えた方が良いのではないかと。「多様な学びのコミュニティ」という言葉は残す。「地域をつなぐ」と「人をつなぐ」については、先ほどの質問から「地域」に変わってしまった。「共に」という言葉があるので、この関係が少し難しいと思っている。しかし、1番でも良いと思うので、副題を2番にしたらどうかと考えている。

委員： とても錯綜しているが、このようなものの中で2つを選んでメインとサブを作るという意味がよく分からない。そもそも、言葉をまとめて作る時に、元々のものから狭めて作ったが、その狭めたロジックは何だったかということをもう1回考えた方が良い。何となく言葉のつながりが良いものをピックアップしただけになるような気がする。テキストマイニングみたいに分析し

た方が良いとまでは言わないけれども、言葉のつながりと言葉の持つ意味合いをグルーピングしたときに、どんなつながりが考えられるか検討することが大事だと思う。書かれた言葉だけを見ている感じがする。

その背景に、何を載せなくてはいけないかもう1回立ち返ったときに、今度何を載せなくてはいけないか、今度も分かりやすいものがあるのかというところを考えた方が良い。例えば、生涯学習の主体がシフトしていくということが3番目にも出てきていた。そういうニュアンスを何とかして載せた方がよいのではないかと考えている。だからまとめた3つの案を見るだけでなく、元々の5つの案から考えていたものをもう1回見た方がよいという気がしている。

委員： 私は、みんな力作だと思っている。みんな素晴らしいと感じているので、どれを選んでも良いが、1番は、生涯学習の目標としてそれを推進するという意味で、多様な学びのコミュニティを作る、それを支援するというのは、少し何かずれているような気がしている。学びのコミュニティを作ることが生涯学習の目的なのかという疑問がある。

それでも1・2・3どれも素晴らしいと思っている。あとはこういうものを選ぶのは、1人の人が言葉の勢いで作るのが一番いい。色々言葉を混ぜて、良いものばかり拾ってきてつなげて、良いものができるということは滅多にないので、誰かに勢いで作っていただくのが良いと私は思う。

副会長： 個々人の思いはあるが、20何万人の市民が共有するものだから、曖昧な方がよいのかかもしれない。何をつなぐか、それは個々人によって、違う。日本語の特徴としては、「何々をする」というより、目的を意識させるように「何とかになる」という方が落ち着きが良いので、「何とかになる」というような標語が並んでいれば、良いのではないかとと思う。「学び返し」も何年経っても、知らないという人がたくさんいる。心地の良い響きで、残るようなフレーズが2、3単語あれば、良いと感じる。

会長： 「多様な学びのコミュニティ」は、生涯学習でこれからそういうものをたくさん作っていきましょうという意味だと思う。

そこから先に何が出来るか。それは、その多様な学びのコミュニティに集った人たちが作っていくべきもので、地域課題の解決になるかもしれないし、そうではないもっと個人的なことかもしれないし、世界に挑むような話かもしれないし、そこは逆に言うとなんでもいいので、「多様な学びのコミュニティ」が大事である。ただ、それが最終目標かということと確かにそうではないと思う。例えば、「学びでつながり 共に成長するまち府中」これがメイン。3番からコミュニティの単語を取っただけである。副題としては、「気軽に

楽しく 参加できる 多様な学びのコミュニティ」はどうか。「多様な学びのコミュニティ」を副題の中に入れ込む。楽しく参加するだけではだめだが、楽しさがないとやっている人は続かないと思うので、そういう意味で楽しさを入れたらどうかと思った。しかし、語呂があまりよくない気がする。

副会長： サブタイトルの「参加できる」は取って良いのではないか。

会長： そうなると、「気軽に 楽しく 多様な学びのコミュニティ」となって、言葉の調子良くなる。メインは「成長」とあり、割と真面目な感じがして、サブタイトルの方はちょっと楽しめる形である。

委員： いいと思う。

会長： メインが、「学びでつながり 共に成長するまち 府中」。  
サブタイトルが、「気軽に 楽しく 多様な学びのコミュニティ」。  
これで良いか。

(異議なし)

会長： では、これで決定したい。また、基本施策の1と2は一応これでいくという話になったので、それに対応した重点施策と具体的な施策の話は次回していく。

## (2) 府中市図書館協議会委員の推薦について

資料5のとおり、図書館からの依頼内容を事務局から説明。本審議会から府中市図書館協議会委員として推薦する者を決定した。

## 6 その他

資料6のとおり、次回以降の審議会の開催時期や計画策定のスケジュールについて、事務局から説明。今回は、令和8年4月23日(木)の午後2時から府中駅北第2庁舎3階会議室にて開催することで、了承を得た。